

後向き観察研究

「非切除急性胆嚢炎に対する内視鏡的胆嚢ステント留置術と
超音波内視鏡下胆嚢ドレナージの有用性に関する研究」

情報公開文書

2020年4月10日 第1版作成

札幌医科大学医学部 消化器内科学講座

1. はじめに

急性胆嚢炎に対する治療法は、本邦のガイドラインでは、発症から 72 時間以内の軽症から中等症の症例では、早期の胆嚢摘出術が推奨されています。また、発症から 72 時間以上経過した症例や重症例、手術困難な症例に対しては、胆嚢ドレナージが推奨されています。近年、高齢化や胆膵疾患の悪性腫瘍の増加に伴い、併存疾患により胆嚢摘出術が困難な症例が増加しています。そこで、手術困難な非切除急性胆嚢炎に対する恒久的なドレナージ法として、内視鏡的胆嚢ステント留置（Endoscopic gallbladder stentin : EGBS）^{エンドスコピック ゴールフラダー ステンティング イージービーエス}や超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ（Endoscopic ultrasound-guided g : EUS-GBD）^{エンドスコピック ウルトラサウンドガイド ゴールフラダー ド イーユーエス ジーピーディー}の報告がなされるようになってきました。EGBS、EUS-GBD いずれも、手技の難易度が依然として高く、成功率の向上のために様々な工夫が試みられています。

本研究では、当科での EGBS、EUS-GBD の成績を後方視的に振り返り、手術困難な急性胆嚢炎の治療成績の向上につながる因子について明らかにすることを目的としています。

2. 対象となる患者さん

2012 年 1 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの期間に、札幌医科大学附属病院消化器内科において、EGBS または EUS-GBD を受けた患者さんを対象としています。対象となる患者さんは当院 10 症例（全体 60 症例）を予定しています。

3. この研究の内容

診療録（カルテ）から患者さんの性別や年齢、臨床診断、EGBS、EUS-GBD の処置内容などの情報を収集し、研究に用います。研究は札幌医科大学消化器内科学講座で行います。なお、この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

4. 個人情報の取扱いについて

本研究では個人情報の保護のため、個人を特定できる情報は収集せず、データの数字化やデータファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。また、本研究の結果を公表（学会や論文等）する際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. この研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2012年1月1日から2020年3月31日までの期間に札幌医科大学附属病院において診断と治療を受けた患者さんのなかで、この研究に診療情報を提供したくない方は、2020年9月30日までに下記の問い合わせ先までご連絡ください。ただし、あなたからご連絡をいただいた時点ですでに、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができません。

6. 研究期間について

病院長の承認日から2021年4月30日までの期間を予定しています。

7. 医学上の貢献

本研究によって、EGBS や EUS-GBD の治療成績の向上に役立ち、手術困難であった急性胆嚢炎術症例における診断・治療をより円滑に行えることが期待できます。研究に参加して頂いたみなさんはそれに貢献したことになります。

8. 研究組織

研究事務局 札幌医科大学 消化器内科学講座
研究協力施設 札幌医科大学附属病院 消化器内科
市立釧路総合病院 消化器内科

9. 問い合わせ先

研究責任者 札幌医科大学 消化器内科 助教 川上 裕次郎
研究分担者 札幌医科大学 消化器内科 助教 本谷 雅代
札幌医科大学 消化器内科 助教 石上 敬介
札幌医科大学 総合診療科兼任消化器内科 助教 柁木 喜晴
札幌医科大学 消化器内科 助教 我妻 康平
札幌医科大学 消化器内科 診療医 室田 文子
連絡先 電話：011-611-2111（内線 32110）教室
対応時間 平日 9～17時（平日日中のみの対応となります）